宮鍼会報

2020/3/30 No. 010

巻 頭 言
宮城県鍼灸師会創立７０周年
青年部員＆学生が行く！
治療院訪問～後編
災害ボランティア活動報告
新入会員インタビュー
令和元年度下半期活動報告
会員リレーコラム「東洋医学コンシェルジュ」
令和２年度上半期行事予定

発行：公益社団法人　宮城県鍼灸師会
HP:　miyagi.harikyu.or.jp/

巻　頭　言

ワンチームとなって前進しよう！

昨年は元号が令和に変わり、早速世の中は様々なことがありました。

とりわけ 10 月の台風 19 号では、丸森町、大郷町をはじめ県内各地に大きな被害がもたらされました。

丁度、災害支援鍼灸師養成講座を開催した一週間後のことでもあり、本当に災害はいつ起こるかわからないことと、そのための準備を普段から備えておくことの大切さを痛感しています。

そして、11 月からは丸森町と大郷町では、本会としては初の災害ボランティア活動が開始され、会員の先生方や会員外の方にもご協力をいただき、避難されている人達に大いに喜んでもらうことができました。

ご協力いただいた先生方には、この誌面をお借りして御礼を申し上げます。

さて、今年はオリンピックイヤーです。前回の東京大会は私がまだ 4 歳の時ですから、当時のオリンピックの記憶はまったくなく、テレビでたまに放映する「懐かしの映像」を見て知っている程度です。

今回の東京オリンピックももう数か月先のことですから、日本選手にとっては最大のパフォーマンス発揮に向けて余念がないことでしょう。

しかし、選手の努力はもちろん必要ではあっても、それを支える周囲の環境がより大切なことではないかと思っています。自国開催なのでやはり国民が一つになって各選手を支える意識が高成績につながるものと思います。

昨年のラグビーワールドカップでは日本選手が過去最高のベスト 8 まで進出し話題となりました。

その時に「ワンチーム」という言葉も流行りましたが、日本中の声援が「ワンチーム」となって選手たちの大きな後押しになったと思われます。

同様に、私たち宮鍼会も今、正にワンチームの意識が求められている時だと感じています。

年間様々な事業を行っていく中で、役員や一部の協力者だけではやれることに限りがあり、いつかそのエネルギーさえも失われかねません。例え先生方お一人おひとりの力は僅かであっても、それが一つになれば大きな力になります。言わば先行投資とも思えるこの力は、やがて業界の発展となり、巡りめぐって最終的には先生方ご自身に何らかの良い形となって戻って来るはずです。

ぜひ、事業の案内や、ご協力のお声がかかった際には、どうかお力添えをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

会長　稲井　一吉

令和二年、宮城県鍼灸師会は創立70周年を迎えます

初代会長　小関　明先生　　二代目会長　佐藤　茂先生　　三代目会長　樋口　秀吉先生　　四代目会長　稲井　一吉先生

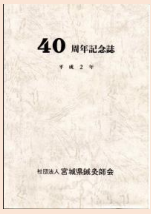
宮城県鍼灸師会の歴史に見るポイント

1．宮城県鍼灸師会の設立はいつ？
2．社団法人宮城県鍼灸師会が県より認可されたのはいつ？
3．公益社団法人宮城県鍼灸師会が県より認可されたのはいつ？
4．歴代会長の名前は？
5．各年代の社会情勢、業界動向、師会の活動指針、活動
6．当師会定款における普遍の目的は？
　などを各記念誌の巻頭挨拶より読み解き、今後の宮鍼会の方向性を考えてみたいと思います。

■宮鍼会定款【目的】■

この法人は、鍼灸学術の進歩発展の為の学術的研究を行い、鍼灸師の資質の向上に努めるとともに、鍼灸術の効果的な活用及び健全な普及を通じ、地域住民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とする。

宮鍼会４０周年（平成２年）記念誌



４０周年記念誌

３０周年記念式典

３５周年記念式典

日鍼会全国集会 in 仙台

≪巻頭挨拶より抜粋　会長　佐藤　茂先生≫

終戦後の混乱から立ち直り始めたころはとかく新しい西洋的なものに価値を見出す時で、東洋的な鍼灸医療等は尤も古式蒼然たるものとして軽視されたのですが漸く中央の業団に於いて、古い伝統を持つ臨床の価値ある鍼灸医療の振興を図るべしとの運動が翕然と起り、これに対して本県に於いても故小関前会長が中心となり紆余曲折苦心の運動を経て昭和 25 年 11 月 19 日「宮城県鍼灸師会」が創立され逐年発展し同 57 年 4 月 1 日宮城県知事より社団法人の許可を得、公益法人としての責任ある事業内容と充実に努め現在に至った次第です。

鍼灸医療の価値は申すまでもなく今や我が国はもちろん世界的に認識されるところであります。鍼灸師等の資格の向上を目的として 40 年振りに改正の「あ・き・は法」が本年 4 月に施行されさらにこの新法の趣旨に沿って㈶東洋療法研修試験財団が同 3 月 28 日付厚生省より設立許可され、愈々待望の活動に入ったにつけても我々鍼灸師は医療の一端を担う医療人としての大いなる自覚を持ち、21 世紀に向け業界の大発展を期し益々努力すべきであり、そのためにはまた持論ながら、我々業界の各人が「学問とその裏付けある技術の研鑽及び人格の陶冶

そして組織の融和団結を図る」ことに努力することが何よりも肝要。各人のこの努力によりわが業界は自ら興隆発展が齎されると共に社会の信用もより得られるものと信じます。なお難問山積、激動の世情に単なる営業一辺倒の治療にのみ専念するならば発展性とて何等認められず、業界はやがて社会の信用を失う結果消滅し去る即ち適者生存の理をよく銘記すべきと存じます。

宮鍼会５０周年（平成１２年）記念誌

５０周年記念誌

４５周年記念式典
（５０周年記念誌より）

新年会

第３回ハーフマラソン
初参加

≪巻頭挨拶より抜粋　会長　樋口秀吉先生≫

創設当時の記録を見ますと決して裕福とはいえない時代、業界繁栄を願い会員相互団結し積み上げてきております。勉強したくても満足に本はなく、本を借りて書き写したと聞いております。現在は、溢れるほどの書物があり、どれを勉強したら良いかを迷うほどで、50 年の歳月で学術的なものは大きく変わってきております。

しかし、制度、身分的なものは、50 年前と差ほど変わっておらず、50 年の節目に立ってこれからの先を見ると、これらの改革に力を注いでいかなければならないのかなと考えております。

現在、国の規制緩和、医療の自由化等で、われわれ鍼灸業界も大きく変わろうとしております。この波に呑み込まれないように、波に乗るにはどうすれば良いかの知恵を出し合い目標を持ち、鍼灸師が一つになり、団結していかなければ将来の開業鍼灸師はないものとみております。

宮鍼会が今後、大きく発展していくには、会員一人一人が力を蓄えていただくことと、これから鍼灸師として巣立ってくる方々の人材育成、開業鍼灸師としての意識高揚が必要と思っております。

宮鍼会５５周年（平成１７年）記念誌

５５周年記念誌

５０周年記念式典
（５５周年記念誌より）

みやぎ国体セラピストチーム

みやぎ国体
レスリングからの感謝状

≪巻頭挨拶より抜粋　会長　樋口秀吉先生≫

この５年間は大きな変革の期間だったといえる。我々の悲願であった**保険の問題が大きく進歩し、期間・回数制限の撤廃**、このことによってわが宮鍼会のみならず全国的に取扱い件数、扱い高が大幅に伸びてきている。このことは少なからず取扱い治療院が潤ってきていることである。このことを会員拡大に繋げ、さらなる同意書簡素化、撤廃につながることを望むところである。

また、鍼灸学校の設置が規制緩和により設置しやすくなり、ここ数年数倍の数になってきている。このことは将来はり師、きゅう師が急増してくることであり、職業的競争が激しくなってくる。質の低下が危惧されている。しかし、業団としては、これをほっておくことはできず、それらの方々を取り込み質的向上に向けての教育を行い、国民により良い鍼灸の医療サービスを提供できる環境を作っていくことが使命と考える。

会員動向としては、**日本の経済状況が悪化と少子高齢化が進み各治療院への影響での会費滞納者、退会者及び高齢者が亡くなるなど会員数の減少という状況下**にある。経済が上向き傾向にあり、今後鍼灸師が急増してくることから、鍼灸の底辺が広がり業界全体が上向くことを祈念している。

宮鍼会６０周年（平成２２年）記念誌

６０周年記念誌

日鍼会全国大会 in 仙台

東北鍼灸学術大会 in 仙台

≪巻頭挨拶より抜粋　会長　樋口秀吉先生≫

現在、公益社団法人制度改革により、平成 25 年までに公益社団法人か一般社団法人化に移行申請を行わなければなりません。公益社団法人を取得するには年間予算額の 50%を公益的事業に充てなければなりません。年間予算額が少ない会では、大変厳しいところがありますが、当師会としましては、長い間、社会奉仕、ボランティア活動と公益的事業を行ってきていることと、上部団体の日本鍼灸師会が公益社団法人を許可されたこともあり、**公益社団法人への移行の準備を進めている**ところです。（公益社団認定平成 26 年 4 月 1 日）

初代会長の小関明氏が艱難辛苦に耐えて創設し、それに続く先輩諸氏が支えてきた当師会であります。今後も、鍼灸師の資質向上と、公益的事業を展開することにより地域社会に貢献し、鍼灸の普及啓蒙を図り、将来の公益法人の名に恥じない組織作りをしていかなければと、あらためて心に刻む思いでおります。

宮鍼会６５周年（平成２７年）記念誌

６５周年記念誌

６５周年記念式典

仙台国際ハーフマラソン

東日本大震災と災害支援ケアボランティア

≪巻頭挨拶より抜粋　会長　樋口秀吉先生≫

会発足 60 年目（還暦）に当たり盛大に事業を行いました。そして新たなスタートを切った直後に **3・11 東日大震災**が起こりました。この 5 年間は**震災の復旧・復興とともに歩んできた**といっても過言ではありません。

国の法人改革に伴い当会も方向性を定め改革を余儀なくされ、早い段階で準備を進めましたが震災の影響で足踏みをせざるを得ませんでした。

以前は、会員からは個人的な要望が多く、会の運営では会員への共済、享受が多くを占めておりました。

師会として国民及び県民に何ができるのか、公益的事業を行うことによって鍼灸師会を知ってもらい、さらに鍼灸というものを知ってもらう、そのことが鍼灸受療に繋がっていくことになります。そのことを法人移行手続き期間中会員に訴え、組織替えを行い事業展開をしてきました。（公益社団認定　平成 26 年 4 月 1 日）

鍼灸の技術、方法論に於いては百花繚乱の様相を呈していますが、鍼灸師の社会的身分は変わらず、法律を変えようとしてもその壁を越えることはなかなか厳しいものがあるようです。しかし、このことは今後も変わることなく後進に受け継いでいただき、目標を失わないようにしていきたいと考えております。

以上の各記念誌の底流にあるものは当師会の定款の目的に記されている内容に尽きます。
社会情勢、業界動向等を的確に把握し、宮鍼会の活動を通じ、会員を増強し一致団結して

1．**鍼灸学術の進歩発展の為の学術的研究を行い、鍼灸師の資質の向上に努める**
2．**鍼灸術の効果的な活用及び健全な普及**
3．**地域住民の健康と福祉の向上に寄与すること**　　これをお読みになって皆様はどう思われますか？

７０周年記念行事

令和 2 年 10 月 11 日(日)
■13：00　７０周年記念事業
■16：00　７０周年記念式典　　於　江陽グランドホテル
■16：30　７０周年記念祝賀会　於　江陽グランドホテル

会員の皆様のご参加、ご出席をお願い致します。

（髙橋　博）

青年部＆学生が行く！治療院訪問

下條鍼灸院　下條静先生～後編

昨年 7 月 13 日、会員の村上理恵先生と鍼灸学生 3 名が、仙台市青葉区落合で開業する下條静先生の治療院を訪問。
治療院見学の後は、近所の食事処で下條先生へのインタビュー、そして楽しくも熱い座談会で盛り上がりました。
後編では、村上先生と学生さん達の感想を掲載します。

■生命の大切さ・医療者としての思い

いつもお世話になっている下條先生ですが、治療院にお邪魔したのはこれが初めてでした。ちょうど開業したばかりでしたが、開業前に来るべきだったと後悔したくらい、コンパクトにまとまりつつ、患者さんの気持ちに寄り添った内装になっていました。

インタビューでは、高校時代に生死を彷徨う体験をされたということで、生命の大切さを身をもって知っていらっしゃるのだということを改めて伺うことができました。

鍼灸師として医療に携わる際に、生死に関わる場面での臨床経験を積める機会はなかなか得られないかと思います。もともと身体が丈夫ではない下條先生が、ハードな下積み時代を乗り越えて、自ら生死に関わる医療現場に志願されたのは、それまでの下條先生の生き方が大きく関わっているのではないかと思いました。

そのモチベーションの高さから、医療チームの中で鍼灸師の立場を築くためにデータを蓄積し、学会発表やチーム内での連携づくりに尽力されたのだと思いました。

そのような医療者としての思いと、経絡治療の下積みで鍛えられた臨床力、強く温かいそのお人柄が岡部医院の方々に浸透し、岡部先生からの信頼も得られたのだと、多くの学びを得ることができました。

惜しみなくお話下さった下條先生に心より御礼申し上げます。　　村上理恵

■小児鍼

下條鍼灸院訪問で特に印象に残ったのは、小児鍼についてです。

下條先生はまず望診で証を決め、経絡を意識しながら施術部位によって使用する鍼を変えるのだそうです。幸運なことに、先生の小児鍼を体験させて頂くことができました。

施術は前腕から上腕を、経絡のつまりを取り除くことを意識されながら細い鍼を直接肌にあてがい、素早く滑らかな手さばきで始まりました。肩背部へは、幅広の鍼に持ち替えて。左右の上肢、肩背部を併せてわずか 5 分ほどの体験でしたが、とても心地良く、受ける前よりも晴れやかな気分になりました。鍼灸師は手が命と言われますが、私も先生のような柔らかく温もりのある、しなやかな手を作りたいと治療を受けて心から思いました。

また、先生は治療院で小児鍼治療をされた後、必ずお母さんにプラスチックの鍼をお渡しして、自宅でできるセルフケアをお伝えしているそうです。治療院で行う治療だけが全てではないのだと感銘を受けました。

今回の訪問は、私にとって鍼灸師の在り方や、相手への思いやりの心とは何かを、改めて考えるきっかけになりました。貴重なお話をありがとうございました。　　赤門鍼灸指圧科 2 年　庄子　綾

■刺激の量

インタビュー中、村上先生が「ターミナルケアをしていたときに患者様に対して特に気をつけていたことは？」と質問なさったとき、下條先生が即座に「ドーゼオーバーをしないこと」と答えていらっしゃったことがとても印象的でした。

ターミナル期の患者様は、そもそもの精気が少なくなってしまっているために自己治癒や調節の能力が低下しており、そのために「刺激の量」という定量化や共有の難しい問題が、いかに治療者である下條先生にとって切実で責任の重い問題としてのしかかっていたのかを、即座にそう答えたご様子から垣間見たような気がしました。

下條先生のお話やご様子からは、先生ご自身の日々の仕事に対する責任感と、病に苦しむ人々の身体に対するいたわりを感じました。

今回私は下條先生によるテルミー温熱療法を体験させていただきましたが、その中でもやはり、手技の繊細さは、医療人としての責任感や病者へのいたわりと同じ根を持つものだということを体感させてくださったような気がしました。

貴重な体験をどうもありがとうございました！　　赤門鍼灸指圧科２年　豊島　章伍

■ターミナルケア

下條先生のお話で特に印象的だったのが鍼灸でターミナルケアを行なわれていたことでした。

ターミナルケアの現場では、医師、看護師をはじめ様々な医療従事者がチームとなり１人の患者様を治療され、その中で連携を取るために様々な工夫をなされたお話を伺いました。

病院では西洋医学が共通言語となるため、下條先生は東洋医学での見立てをしつつ、チーム共有のカルテでは西洋医学の言語に置き換えコミュニケーションをとられていました。それによりチームの連携がスムーズとなり、信頼関係を築き上げることが出来たそうです。このような対応をするためには、東洋西洋の分け隔てなく深い知識が必要となります。学校での勉強は、どうしても目前の国家資格取得のためと考えがちですが、日々の勉強は将来の患者様だけでなく、様々な医療機関との架け橋になることが分かりました。

今回、 下條先生のお話から 「何の為の勉強なのか？」という事が明確になり、勉強への意欲がより一層湧いてまいりました。本当にありがとうございました。　　赤門鍼灸指圧科２年　杉山　琢磨

下條　静 先生

1999 年　はり師きゅう師免許取得
　　富谷医院整形外科勤務
2000 年　岡部医院勤務
　　鍼灸部部長として在宅緩和ケアに従事
2008 年　間中賞奨励賞受賞
2010 年　下條鍼灸院開設
（公社）日本鍼灸師会会員　（公社）宮城県鍼灸師会総務委員
経絡治療学会評議委員　経絡治療学会夏季大学教室助手
経絡治療学会東北支部講師
趣味：トレッキング　猫

おいそがしい中、お時間を割いてくださった下條先生、本当にありがとうございました。

災害支援鍼灸ボランティア活動報告　①

2019 年　台風 19 号豪雨災害

「災害支援鍼灸師養成講座」

2019 年 10 月 12 日に日本に上陸した台風 19 号は全国各地に甚大な被害をもたらしました。

宮城県でも丸森町、大郷町など県内各地に被害が及びました。奇しくも宮鍼会では 10 月 6 日に「災害支援鍼灸師養成講座」を開催し、今後会としての災害支援に対する準備を進めようとしていた矢先の災害でした。

当会の会員中にも被災された先生があり、会長が訪問、お見舞いをさせて頂きました。

今回の宮鍼会における災害支援ボランティア活動の報告を致します。

■丸森町ボランティア

■令和元年 10 月 12 日、台風 19 号により県内各地は大きな被害を受けました。初めはどの程度の被害状況なのかが分からなかったのですが、テレビなどのメディアを通じて被害の大きさを知りました。

私が日鍼会の危機管理委員会に所属していることから、他県の被害状況やボランティア活動の情報が入り、宮城の被害はまず県内の支援が必要との思いから、災害ボランティアを決意しました。実施に当たっては、9 年前の震災の時にボランティア基地を立ち上げ活動した前会長の樋口先生にノウハウやアドバイスと共に資材等の提供もしていただき大変助かりました。

まず、行政との交渉から始まり、資材備品の調達、ボランティアの参加者を募ること等々、初めてのことばかりで手探り状態ではありましたが、関係者の方々の協力により 11 月 3 日から丸森町舘矢間小学校避難所にて活動を開始することができ、被災地の人々に少しでも復興の手助けができることを嬉しく感じました。

稲井一吉

■台風 19 号は県内各所に深刻な被害を与えました。2 週間後、稲井会長より宮鍼会による鍼灸ボランティアのお話を伺い是非お役に立ちたいと思いました。東日本大震災時、樋口先生の元でボランティア派遣基地局での経験があり、宮鍼会として初めての災害ボランティアの為に、注意事項の文章化、ボランティア保険の手続き、必要物品や記録用紙の準備など、稲井会長、今野副会長、前田先生、樋口先生のアドバイスの下、進めました。11 月 3 日に 1 回目の鍼灸ボランティアを丸森町舘矢間小学校で行い、隣で寝ていたご主人を亡くされた方や、休みなく疲労が蓄積した職員の方などが施術を受けて下さいました。心も生活も傷ついた被災者にとって避難生活は二重のストレスです。心身の疲労回復と生活再建への活力のお手伝いが少しでもできるよう、今後も積極的に参加していきたいと思います。

村上理恵

災害支援鍼灸ボランティア活動報告　②

■大郷町ボランティア

■10 月 12 日に上陸した台風 19 号の被害は吉田川沿いでも悲惨な状況でした。会長の依頼で被害状況の確認するため、カメラを持参で大崎市鹿島台下志田地区・大郷町粕川地区に足を運びましたが、悲惨な状況を目にし、写真は撮る事は叶いませんでした。

その後 11 月 16 日より、大郷町の保健師の方からの要請により災害鍼灸マッサージプロジェクトのプロデュースにより共同で鍼灸ボランティアとして避難所＝フラップ大郷 21（体育館）に入る事となりました。第一回目は災害鍼灸マッサージプロジェクトの都合で夜 8 時からという強行スケジュールで受付開始から慌ただしく、終わってみれば二時間で 16 人。翌 17 日は二時間で 20 名にもなりました。

12 月中に宮鍼会単独で引継ぎ、令和 2 年からは仮設住談話室で月二回 3 月頃迄継続の予定となっています。

今野正弘

■避難所に入ったのは初めてでした。私はこれまで被災したことがなく、避難所の生活がどのようなものなのかテレビで映るくらいにしか見たことがありません。人が少ない時間帯だったのか、静かで生活するには息苦しいような空気を感じました。

実際に患者さんに接してみて、思っていたよりも皆さん悲愴感を漂わせているわけでもなく、現状を受け入れつつあるかのような雰囲気だったと思います。とてもしっかりされているという印象を受けました。もしかしたら思い違いかもしれませんが。

ボランティアに参加してみて、もっと患者さんの気持ちを汲み取って治療できたら、気遣えたらよかったのではないかと反省しています。臨床経験が浅いとはいえ、普段の治療から改めなければと思いました。今回参加して感じたことを忘れずに患者さんと向き合っていきたいです。

ふるかわ鍼灸マッサージ院　千葉美波

今後については、ボランティアを行った丸森と大郷でのカルテを元に、報告書を作成し、時期を見て報告会を開きたいと思います。

また、災害時にはどのように情報を収集するか、そして会員の安否確認、被災地へのボランティア派遣や受援体制を整える、などのガイドラインやマニュアルを作成する予定です。

※ボランティアは強制するもの、されるものではありません。

会員それぞれの考え方、事情により判断されるべきものです。

また、被災地でのボランティアに参加していただいた先生方以外に、準備や物資提供などによる支援、別の形での支援をされた先生方が多数いらっしゃいます。

そして、被災者の皆様、町の関係者の皆様、関わって頂いた全ての関係者の皆様に御礼申し上げます。

ようこそ宮鍼会へ！！　新入会員インタビュー

石川　一男　先生

Q1.　開業または勤務地

花つつみ鍼灸院（栗原市若柳）

Q2.　卒業学校名

赤門鍼灸柔整専門学校

Q3.　趣味

居合道五段

５０歳から始めて、五段になりました。

Q4.　宮鍼会に望むこと

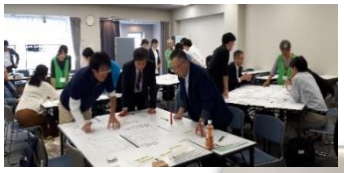
新人ですので分かりやすいご指導を賜りましたら幸いです。

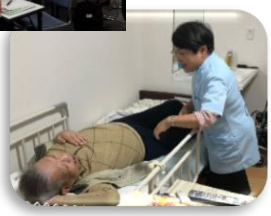
Q5.　入会にあたりひと言！

６７歳で資格取得しました全くの新人です。
皆様のご指導を賜りながら精進してまいります。
道は遠いと思いますが、体が続く限り、命がある限り精進して参りたいと思っております。
皆様、どうかよろしくお願い致します。

令和元年度下半期事業報告

10/6(日)　県民公開講座・災害支援鍼灸師養成講座
10/16(水)　保険審査会
10/27(日)　施設訪問ボランティア　自生苑
10/30(水)　宮鍼会正副会長会議
11/3(日・祝)ひとめぼれマラソン・ケアボランティア
11/10(日)　施設訪問ボランティア　大衡村　七峰荘
11/20(水)　保険審査会
12/5(木)　宮鍼会会報№10 制作会議
12/8(日)　スキルアップ研修会
12/18(水)　保険審査会
1/11(土)　新年会
1/17(金)　宮鍼会正副会長会議
1/22(水)　保険審査会
1/19(日)　スキルアップ研修会
1 月末　日本鍼灸師会賠償保険更新手続き完了
2/9(日)　第 3 回宮鍼会理事会・スキルアップ研修会
2/19(水)　保険審査会
2/27(金)　宮鍼会正副会長会議
3/18(水)　保険審査会
3 月末　宮鍼会会報№10 発行





会員リレーコラム

東洋医学コンシェルジュ vol. 7

今こそ見直そうお灸のちから！　足三里の灸で免疫力アップ！！

新型コロナウイルスの流行と連日飛び交う報道に、多くの方が不安を感じて過ごす今日この頃。こんなとき、自分でできる感染症対策のひとつに、お灸があることをご存知でしょうか。

お灸は東洋医学に基づいた体に優しい温熱療法として、昔から病気の予防や健康増進に使われてきました。お灸すなわちモグサの原料であるヨモギには、浄血、殺菌、末梢血管拡張、新陳代謝促進などの効果が認められています。お灸をすえることで、疲労の回復や血行促進のほか、白血球が増えることなども明らかになっており、これは、お灸をすることで免疫機能が整い、病気に対する抵抗力が高まることを示しています。

数あるツボの中でも、特に免疫力を高めるツボとしておすすめなのが足三里（あしさんり）。ひざのお皿の下、外側にあるくぼみから指４本分下がった所にあります。日本で初めてお灸研究による博士号を取った医師の原志免太郎先生は、足三里へのお灸が結核の予防と治療に有効だと証明し、毎日たくさんの患者さんにお灸をしてあげていたそうです。

東洋医学には「扶正去邪（ふせいきょじゃ）」といって、正気（元気）が充実していれば邪気を追い払うことができるが、正気が不足していると邪気に負けて病気になってしまう、という考え方があります。

感染症に罹りにくい体、もし感染しても重症化しない体を作るには、私たちが本来持っている自然治癒力を高めることが大切です。そのために、今日からできる簡単で効果的なセルフケアとして、皆さんもぜひ日々の生活にお灸を取り入れてみてはいかがでしょう。

※現在では、安全で使いやすいタイプのお灸がドラッグストアなどで手軽に購入できます。お灸のすえ方やツボの取り方などに不安のあるときは、お近くの鍼灸師にお尋ねください。

また、妊婦さんへのお灸は、医師の許可のもと専門の鍼灸師に任せてください。

執筆：西羅　美流（伊東はり灸整骨院）

※コピーして待合室に置くなど、患者様への啓発リーフレットとしてもご活用ください。

令和二年度上半期事業予定

4 月 4 日(土)	令和元年度監査会
4 月 12 日(日)	宮鍼会理事会
4 月	鍼灸専門学校への普及啓発（入学式）
5 月（未定）	宮鍼会正副会長会議
5 月 10 日(日)	宮鍼会令和二年度定時総会（15 時～、於シルバーセンター） 仙台国際ハーフマラソン　救護ボランティア
5 月(未定)	母と子のふれあい健康教室およびスキンタッチ講習会
6 月 27 日(土)・28 日(日)	東北 6 県公益事業情報交換会（福島）
7 月（未定）	宮鍼会正副会長会議
8 月（未定）	宮鍼会理事会
9 月 26 日(土)・27 日(日)	東北鍼灸学会学術大会（盛岡）
9 月末	宮鍼会会報発行

その他に、スキルアップ研修会・施設訪問ボランティア・療養費適正指導講習会
保険審査会（毎月）、７０周年記念行事準備などを予定しております。

編集：髙橋博／西羅美流／澤口史絵